

図4： 破損したハンググライダー本体と、特に損傷の無いハーネス及び事故現場で開傘状態で発見された緊急パラシュート。ハンググライダーの主要な骨組みの一部は、この画像では見えない。ハンググライダーのセールの中央部が大きく裂けている。その後方に、キングポストと、裂けたセールの一部が残っているキール後部に接続したコントロールバーを置いている。右翼端から4番目に見える、メーカー呼称5番バテン以外のバテンに大きな変形は認められない。



図5：骨組み。キール中央部は撮影時は行方不明。キングポストはコントロールバーの前に置いている。



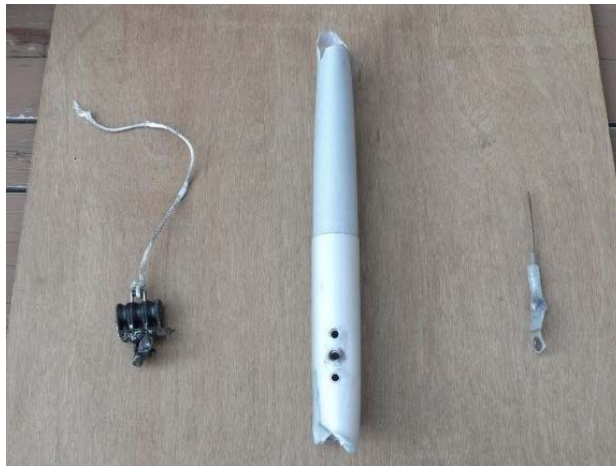
(左)図6：特に損傷の無いハーネス及び事故現場で開傘状態で発見された緊急パラシュート。

(右)図7：コントロールバーと、コントロールバー付け根から後方のキール



(左)図8：コントロールバー前方でキールが破断している。

(右)図9：8月7日に発見されたワイヤー片と8月11日に発見されたキール中央部及びVG プーリー。



(左)図10：パイロットと共に発見されたキングポストの基部付近。キングポストをキールに接続するボルト及びナットは行方不明。スイングラインに大きな損傷は無い。

(右)図11：同キングポストの頂部。プラスチックカバーは脱落して行方不明。フロントワイヤーがボールスエジ部を残して溶融。アルミブロックに、他のワイヤーによると思われる焼損あり。

